



徳成寺 寺とかわら版 第168号 2020年12月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

2020年も終わりますが、どんな1年でしたでしょうか？

口をそろえて「コロナ」と出てくるかも知れません。コロナの中で

明らかになって来たのは、今だからこそ仏様の優しさや智慧に出会って

頂きたいということです。コロナ禍で若い年代を中心に自ら命を絶つ人が

増えていると聞くからです。死ぬほど生きるのが辛くとも、一緒になって苦悩

してくれるのが仏様です。そして私たちの背中を押して仏様の優しさや智慧に

出会うよう勧めて下さるのが親鸞聖人です。どんなに私たちが辛くても背中を

押して励ましてくれるのが親鸞聖人です。仏様と仏様に出会わせてくれる

親鸞聖人にご縁を結んで頂くのが徳成寺の使命であると再確認した1年でした。

-発行責任者-

住職

大山健児

坊守

大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば

いつもお世話になっています、長男です。

2020年は皆さんにとってはどんな年だったでしょうか。私はまあ良かった方だと思いました。何故なら1992年生まれの私の人生の節目には決まって不幸なことが起きているからです。誕生と同時にバブル崩壊、大学進学の際に3.11、結婚適齢期にコロナ大流行と、象徴的な不幸に見舞われることから92年生まれは最悪の世代と言われます。確かに最悪と思うこともありますが、誕生、進学、そして今年の結婚の際にも門徒さんを始め、お祝いの温かい言葉をたくさん頂いてきました。私達の周囲には支えてくださる方や気にかけてくださる方々がたくさんいらっしゃいます。最悪と言われるとどうしても悲観的になるものですが、必ず見守ってくれる人がいる事を実感すると、まあ良かったんじゃないかと思いました。写真は今年めちゃくちゃ流行った鬼滅の刃です。来年の事を言うと鬼が笑うそうですね。私は鬼ではないですが、来年も皆さんと笑い合えるそんな1年にしたいです。

